

# Make in Maharashtra

——マハラシュトラ州首相へのインタビュー——

大矢 伸

国際協力銀行 ニューデリー駐在員事務所  
首席駐在員



デヴェンドラ・ファドナヴィス首相は1970年生まれの45歳。RSS（民族奉仕団）出身。マハラシュトラ州のナグプール大学で経営学の修士号を取得、27歳のときナグプール市の市長に就任。2014年10月よりマハラシュトラ州首相。政党はBJPに所属。

インタビューは7月23日の午後に行ったが、当日は、マハラシュトラ州議会が開催中のために、州議事堂の控室でお時間をいただいた。

**大矢** 本日は州議会開催中のお忙しい時期にお時間をいただき感謝。まず、首相の政治家としての夢を教えてください。

**首相** 私の夢は、マハラシュトラ州（以下「マ州」）を大いに発展させ、それを通じてインド全体を発展させること。マ州は、人々の期待に応えて、若者に仕事の場を提供し、世界の製造業の拠点となる。そのために尽くすことが私の夢であり役割である。

**大矢** 外国からの投資を受け入れるに際して、マ州の強みは何か。

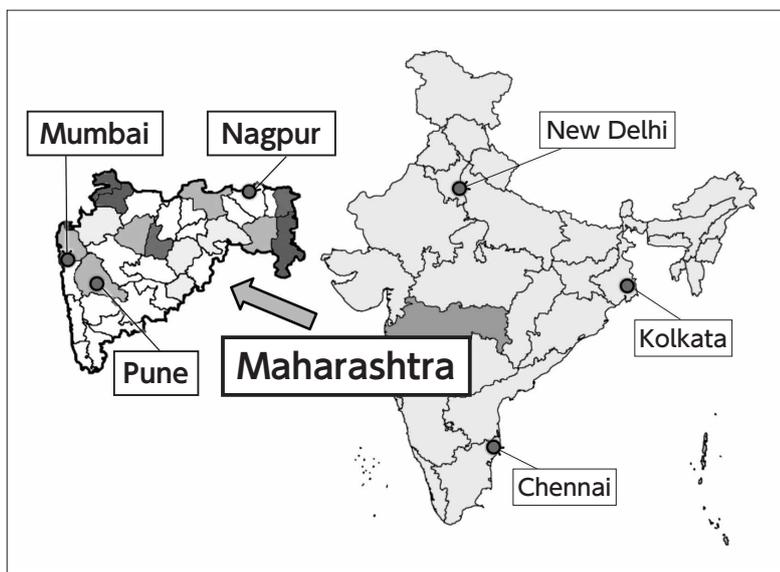
**首相** マ州は、企業にとって最も好まれる投資先。現在、

世界の名だたる企業がマハラシュトラで活動している。1991年8月にインドが経済を自由化して以降、マ州は最も多くの海外直接投資の提案を受け入れてきた。マ州は、2015年1月までの累計で、1万8804件、10兆7462億6000万ルピー（現在のレートで約20兆円）の海外直接投資を受け入れ、これは335万6000人の雇用を産み出した。このうち、製造業は、8453件、2兆5912億7000万ルピー（同約5兆円）で、111万1000人の直接雇用を産み出した。05年6月以降、直接投資は合計3兆4500億ルピーで37万7000人の雇用を産み出す438のメガプロジェクトが承認された。このうち、4335億4580万ルピー（同約8000億円）、雇用7万7555人の124のメガプロジェクトが現在オペレーションを開始している。

**大矢** マ州の電力不足は深刻だが、Make in Maharashtraイニシアチブのもとで産業活動の活発化が見込まれるなかで、マ州政府はこの問題にどのように対応するつもりか。

**首相** 危機を克服するために、マ州は長期戦略を準備した。具体策として以下の6点があげられる。①14.4GW<sup>かんがい</sup>の再生可能エネルギーの追加、太陽光駆動農業用灌漑ポンプの導入による在来型電源の負担軽減を含む新再生可能エネルギー政策、②4000MWの超臨界圧石炭火力、③発電所稼働率（Plant Load Factor）を60%から80%まで上げる、④送電ロスを14%から4%まで下げる、⑤炭鉱からの効率的な石炭の配送、⑥LEDを活用して合計500MW規模の節電。なお、太陽光に関しては、2MWまでは、州が市場価格の半額で土地を事業者に売却するなどさまざまな支援策を考えている。

**大矢** 現在マ州は連立政権だが、連立を構成するBJPとシブセナの間には亀裂があると報道される。今後、どのように連立を調整し機能させていくのか。



マハラシュトラ州の主要都市と位置

**首相** 連立に亀裂という報道は正しくない。実際には、連立政権はよくバランスがとれ、政策へのコミットに基づき運営されている。いくつかの点で見解の相違が生じることはあるが、これはむしろ民主主義の健全性を示すもの。マ州政府はマ州の発展に強くコミットしている。連立相手のシブセナも発展を支持する政党である。

**大矢** マ州政府は牛肉の禁止を導入したが、これに反対する声もある。本件に関するマ州政府の立場を教えてください。

**首相** 牛肉禁止は以前の政権が法案を可決していたもので、マ州に新政権が誕生した後に中央政府の大統領が同意を与えたもの。マ州政府としては、牛は酪農収入の重要な源と考えている。長期間にわたり牛の頭数に減少傾向がうかがわれるところ、今回の措置は牛という農民の大切な資産を増やすことを助けるものと考えている。

**大矢** ムンバイの交通渋滞のひどさはマ州の発展の大きな阻害要因だと考えるが、これに対処するためのマ州政府の計画を教えてください。

**首相** 交通渋滞緩和のために、マ州政府は、西海岸高速道路や約800億ルピー（同約1500億円）の2つの地下鉄路線を計画している。また、セプリとナバシェバをつなぐトランス・ハーバーリンクの実現にも力を入れている。中心部の主要道路の混雑緩和のためにさまざまな措置を導入している。

**大矢** マ州は、ナビ・ムンバイの開発に力を入れているが、土地の確保で苦労していると聞く。特にナビ・ムンバイ新空港については、土地問題が障害になっていると聞くが、どのように対応していくのか。

**首相** ほとんどの地権者が州のパッケージを受け入れることを決め、コンセンサスができた。また、影響を受ける住民への生計回復（リハビリテーション）パッケージも被影響住民の90%が受け入れた。彼らは代替地を与えることになる。

**大矢** Make in Maharashtraイニシアチブに関連して、マ州の外国直接投資の受け入れ方針如何。日本や中国からの直接投資への期待につき教えてください。

**首相** 最も大事なことはビジネス環境の改善。世銀調査では、インドのビジネス環境（ease of doing business）は世界の142位にとどまるが、これを50位にまで上げる



マハラシュトラ州のファドナヴィス首相

べくマ州としても効果的な措置をとっていく。新たなベンチャーや企業を設立するに当たって必要となる許認可を大幅に減らす。

**大矢** 最近、貴首相の予定されていた日本訪問が急きょキャンセルされたが、今後の日本訪問予定は。

**首相** 9月に訪日したいと思い調整をしている。早く日本を訪問し、日本の方々と交流したいと切望している。

**大矢** 日本の投資家に期待していること、また日本の投資家にメッセージがあれば教えてください。

**首相** まずメトロ。ムンバイ、ナグプール、プネのメトロにつき日本の経験を歓迎する。プネに日本専用工業団地をつくる計画も開始している。また、インフラ分野などで国際協力銀行（JBIC）の積極的な融資をぜひ期待したい。日本は高い技術をもつ。また、しっかり調査を行い、時間はかかるが意思決定したらしっかりと最後までやり遂げる。われわれはこうした日本のやり方を高く評価している。マ州政府は、日本の投資やビジネスを支援し、パートナーとして手を携えてともに成果をあげていきたい。日本のビジネスに何か問題が生じれば、その解決に向け積極的な協力を行うことをお約束する。

**大矢** 本日はご対応いただき感謝。訪日の成功とマ州のますますの発展をお祈りしている。

※筆者略歴：1991年日本輸出入銀行入行、98～2001年世界銀行、06～08年国際協力銀行東南アジア地域担当課長、08～11年CEO秘書、11年～石油・天然ガスセクター担当課長、12年5月より現職。休日はインド国内旅行とサッカーを楽しむ。東北大学法学部卒、ボストン大学大学院法学修士。

